

## 子どもの読書活動の推進について

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備を推進していくことが重要です。

—子どもの読書活動の推進に関する法律 第2条（基本理念）より—

### 1 現状と課題

#### (1) 本県における読書活動推進の位置づけ

子どもが本に親しむ原点は「楽しさ」です。「楽しさ」を繰り返し味わうことで、子どもは本が好きになります。 —第三次三重県子ども読書活動推進計画 1 基本的な考え方より—

子どもが楽しさを体験できる機会をつくり、子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書を楽しめることができるように県では、「第三次三重県子ども読書活動推進計画」に基づき、「読書環境の整備」、「読書機会の提供」、「読書活動の啓発」の3つの観点に沿った取組を学校、家庭、地域等社会全体で促進するという基本方針のもと取り組んでいます。

しかしながら、小学生、中学生と年齢があがるにつれて読書時間が減少する傾向があるなど、依然として課題がみられます。

○授業時間以外に1日あたり10分以上、読書をする児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

| 区分/年度 |     | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-------|-----|--------|--------|--------|
| 小学生   | 三重県 | 62.4%  | 61.8%  | 64.4%  |
|       | 全国  | 63.5%  | 63.3%  | 66.2%  |
| 中学生   | 三重県 | 46.4%  | 47.7%  | 49.6%  |
|       | 全国  | 49.7%  | 51.4%  | 53.5%  |

○読書が好きと回答した児童生徒\*の割合（全国学力・学習状況調査）

| 区分/年度 |     | 平成29年度 |
|-------|-----|--------|
| 小学生   | 三重県 | 74.0%  |
|       | 全国  | 74.3%  |
| 中学生   | 三重県 | 70.1%  |
|       | 全国  | 69.9%  |

※「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒  
 ※平成30年度調査では質問項目が廃止されています。

#### (2) 国における課題の分析と取組の方向性

（第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」より）

- 中学生までの読書習慣の形成が不十分
- 高校生の不読率が依然として高い状況

○発達段階に応じた取組により読書習慣を形成していくことが必要

○小学校、中学校、高等学校等の各学校段階において、読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書館の紹介、読書経験の共有、学校図書館の利活用により、様々な図書に触れる機会を確保することが重要

○友人等の同世代で行う活動等を通じ、読書への関心を高めることが必要

## 2 本県の主な取組

本県では、子どもの読書活動の推進に関する法律を踏まえ、「第三次三重県子ども読書活動推進計画」を策定し、読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発の3つの観点に沿った取組を学校、家庭、地域の社会全体で推進しています。

### (1) 平成29年度取組実績

#### ①学校での読書活動を推進する取組

友人同士など同世代からの働きかけを通じ、読書への関心を高めるとともに、読書活動をとおして思考力、判断力、表現力を育成するため、ビブリオバトルの実施（延べ408人参加）や普及（講習会に10市町参加、学校に出向いてデモンストレーションを実施）に取り組んできました。主に高校を対象に実施してきましたが、小・中学校への導入も促進しました。

また、子どもたちが図書館の機能や役割について理解を深め、家庭、地域、学校等で家族や友人に読書の楽しさや大切さを伝え、本と人、図書館と人をつなぐ役割を果たす子ども司書を育成（延べ9市町、79人）し、周囲の人に読書をすすめる活動を促進しました。

このほか、家族や友人とのコミュニケーションを通じて、読書の幅を広げるための取組（読書の楽しさひろがるビンゴカード）を小学校（68校、約12,000人）で実施しました。

#### ②家庭での読書活動を推進する取組

県内の小学校1年生の保護者向けに、家族でコミュニケーションを図りながら読書を楽しむ家読（うちどく）の啓発チラシを配布（約16,000枚）し、学校を通じて家庭に働きかけました。このほか、上述の読書の楽しさひろがるビンゴカードの取組を通じて、家庭での読書活動を促進しました。

#### ③地域での読書活動を推進する取組

読み聞かせなどの読書行事が実施されることが少ない商業施設において、読書ボランティアや商業施設と連携し、主に未就学児を対象とした読み聞かせイベントの活動（7回）を促進しました。

#### ④成果と課題

これまでの取組を通じて、小・中学校においては、ビブリオバトルなど、児童生徒が互いに本を紹介しあう取組や読書に興味関心が高い児童生徒をリーダーとして、読書の素晴らしさや大切さを伝える取組を行う学校が増加するなど、同世代のつながりをいかした活動がひろがりました。

○学校で自由読書活動の推進のために行った活動（読書活動に係る調査：三重県教育委員会調査）

|     |        | ビブリオバトルなど、児童生徒が互いに本を紹介し合う取組 | 読書に興味・関心が高い児童生徒をリーダーとして、読書の素晴らしさや大切さを伝える取組 |
|-----|--------|-----------------------------|--|
| 小学校 | 平成28年度 | 112校/370校 (30.1%)           | 60校/370校 (16.1%)                           |
|     | 平成29年度 | 132校/357校 (37.0%)           | 75校/357校 (21.0%)                           |
| 中学校 | 平成28年度 | 40校/156校 (25.8%)            | 26校/156校 (16.8%)                           |
|     | 平成29年度 | 44校/154校 (28.6%)            | 28校/154校 (18.2%)                           |

○「朝の読書」などの一斉読書を実施する学校の割合（読書活動に係る調査：三重県教育委員会調査）

|     |        | 週に2回以上実施する割合      |
|-----|--------|-------------------|
| 小学校 | 平成28年度 | 293校/370校 (79.2%) |
|     | 平成29年度 | 276校/357校 (77.3%) |
| 中学校 | 平成28年度 | 141校/156校 (90.4%) |
|     | 平成29年度 | 144校/154校 (93.5%) |

しかしながら、授業時間以外で読書をする児童生徒の割合は、本年度増加したものの、全国と比べると依然として低い状況です。また、読書が好きな児童生徒の割合や読書時間については、小学生よりも中学生のほうが少ない状況です。（参照 1頁1(1)）

そして、ビブリオバトル、子ども司書などの取組は読書が好きな児童生徒が参加することが多く、読書があまり好きではない児童生徒にどのように働きかけていくかが課題となっています。

また、「朝の読書」などの一斉読書を実施する学校の割合は高いものの、読書時間の増加につながっていないため、一斉読書の時間の活用方法に工夫が求められます。

## （2）平成30年度取組の展開

こうしたことから、県では朝の一斉読書の時間の活用を始めとした学級全体で取り組める読書活動を通じて、読書があまり好きではない児童生徒も含めた取組を促進するなど、子どもが本に出会う機会を拡充するとともに読書の幅を広げる取組をすすめ、読書活動は楽しいという実感が持てるようにし、読書習慣を確立していきます。

また、身近な学校図書館の利活用を促進するとともに、児童生徒が主体性をもって読書に取り組める活動により、児童生徒一人一人の読書力の向上や、家庭で読書に親しむための取組、地域の多様な主体による読書活動を促進するための取組を行っていきます。

※新学習指導要領においても、読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つと位置付けられ、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結びつくよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められています。

※読書好きの児童生徒ほど全国学力学習状況調査の各教科の正答率が高いといった結果が出ています。（参照 別紙【参考1】）

### ①学校における取組

児童生徒が読書は楽しいという実感を持つとともに、自ら進んで読書するためには、身近な学校図書館等において、様々な読書活動が学校の実情にあわせて実施できることが必要です。そこで、県立高等学校の学校図書館の活動事例や図書関係者の意見等を踏まえ、小・中学校において学級全体で取り組める活動など授業でも取り入れやすく、発達段階に応じた活用がしやすい活動を提案し実施を促進します。

ア)「読書の楽しさ」を子どもたちが発見できるよう、読む力が弱い児童生徒であっても、言葉から想像を膨らませる楽しさを実感できる時間を作っていく取組

⇒本の楽しさをみんなで共有できる活動『朝の連続小説』

※朝の一斉読書の時間などを活用して、物語など連作ものの本を毎日数ページづつ、担任の先生が子どもたちに5～10分間程度、本を読み語る活動です。

イ) 児童生徒の主体的な読書につながるよう、最も身近な学校図書館が機能を発揮できる読書環境をつくり、子どもの読書力の向上につながる取組

⇒本や図書館への興味を引き出す活動『図書館クイズ』

※図書館の基本的な利用方法や本の探し方などをクイズ形式に作成し、児童生徒が楽しく学ぶとともに身につくようにするものです。

⇒学校図書館にかかる学びの取組

※学校図書館担当教員（小・中学校等）を対象とした研修機会を拡充していきます。

ウ) 児童生徒一人一人の読書力を活かした読書活動を展開するため、読書の楽しみを見い出している子どもが読書の楽しみ方がわからない子どもに対して、自分の「大好き」や「お気に入り」を紹介することで、子ども同士の気づきを促す取組

⇒読書に親しむきっかけづくり『読書の楽しさひろがるビンゴカード』

※友人同士や家族とのコミュニケーションを通じて、読書の幅を広げるためにビンゴカード形式のカードに読んだ本の題名を記入するものです。

⇒読書の幅を広げるための活動『本の福袋』

※おすすめの本数冊をあらかじめ選書し、福袋にして準備したものを展示コーナーなどに置き、借りてもらうものです。

エ) 読書により知ったことを伝える目的を設定することにより、読書への意欲を引き出すとともに、他者の考えに触れることにより、新たな読書の楽しさの発見につながる取組

⇒同世代からの働きかけを通じ、読書への関心を高める活動『ポップづくり』

※実際に読んだ本の内容や感想、本の内容に関する絵などその本の魅力を数センチ四方の画用紙等に手書きし、本に添えて図書館に展示するなどするものです。

⇒同世代からの働きかけを通じ、読書への関心を高めるとともに、本への理解を深め、表現力等を培う活動『ビブリオバトル』

※自分が読んで面白かった本を1人5分間（あるいは3分間）で発表し、聴いている参加者との簡単なディスカッションの後、参加者全員で読みたい本を選びます。

※なお、「朝の連続小説」の取組については、全国でも取組例があり、「読む力」を養う前に「聞く力」をつける取組として推奨（多気町の図書館関係者）がありました。また、「図書館クイズ」、「本の福袋」の取組については、学校図書館の活動が活発な四日市、久居農林、松阪、名張、名張青峰、上野高等学校などでも実施され、「ビブリオバトル」については高等学校で取組がすすみ、小学校、中学校でも取り組み始めています。

## ②家庭における取組

各家庭の読書習慣や読書の楽しみ方、家庭でコミュニケーションを図りながら、ともに楽しめる本や、読み聞かせにふさわしい本などの情報を募集し、県教育委員会でとりまとめるうえ、今後、家読（うちどく）推進のための情報発信に活用を図っていく予定です。

また、家族や友人とコミュニケーションを図りながら読書に親しむビンゴカードの取組を通じて、子どもたちに人気本の情報を把握し、学校等に周知していきます。

## ③地域における取組

読書ボランティア、商業施設等と連携した読み聞かせ（主に未就学児を対象）の読書イベントの開催を促進します。

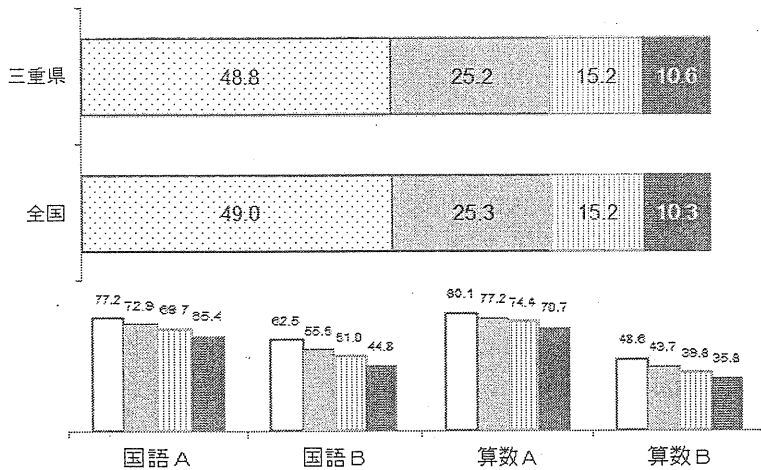
また、読書ボランティアを対象に、本の読み方、選書の仕方をはじめ、子どもと本との出会いをひろげるために、読書ボランティアとして必要な役割や知識などを学ぶ研修会や交流会を開催するなど、読書を支える人材の資質向上を行います。

## 【参考 1】読書と学力の関係について（平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果）

## 【児童生徒質問紙】(72・74) 読書は好きですか

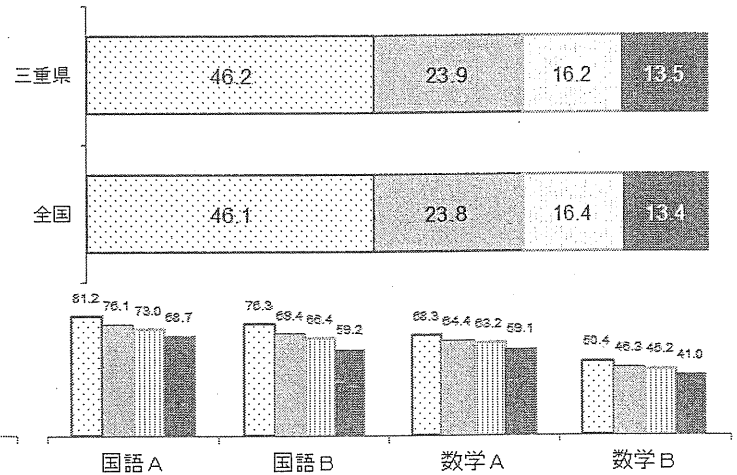
## 小学校

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる  
 □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



## 中学校

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる  
 □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



※上記の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を、下記の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率を示しています。

※平成 30 年度調査では質問項目が廃止されています。

## 【参考 2】取組事例

## (1) 多気町

※2017 年第 21 回「図書館を使った調べる学習コンクール」（公益財団法人図書館振興財団主催）優秀賞・日本図書館協会賞受賞

お話し会やブックトークなどを通じて、学校司書が児童生徒に本の魅力を伝えたり、学校図書館を使った調べ学習を教員と連携して実施しています。また、町内すべての小・中学校に学校司書を配置し、学校司書は職員会議や校内研修会にも出席し、児童生徒一人ひとりに応じた本選びを行ったり、授業で活用できる資料の紹介などを行い、子どもたちの読書活動や学習を支えています。

## (2) 大紀町

学校図書館運営補助員が小中学校を巡回し、読書相談や授業サポート（読み聞かせ、レファレンス、調べ学習等）を行っています。また、テーマを決めてのコーナー設置や子どもたちへの本の紹介カード作成、図書購入の選定、受け入れ等の業務を行うとともに、ビブリオバトル開催の指導・助言などを行っています。

## (3) 御浜町

平成 28 年度から町立公民館図書室に司書を 2 名配置し、学校への巡回を開始し、各学校の図書管理や読書指導を行っています。また、平成 29 年度に「第一次御浜町子ども読書活動推進計画」を策定し、ブックスタート事業やセカンドブック配布事業などを行っています。

(4) 四日市市立南中学校 ※平成30年度子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰

10分間読書のための学級文庫の整備、読書に基づく1分間スピーチ、教科の学習に関連したブックトーク、調べ学習の支援等、第3学年による読み聞かせ会、ビブリオバトルの開催、多読者の表彰を行っています。また、「先生のお勧め本」コーナー等、図書支援員による特設コーナーを設置しています。

さらに、「読み聞かせ図書館」の設置、市立図書館の巡回貸出図書の活用等、市と連携し読書活動の推進に取り組んでいます。

(5) 三重県立昴学園高等学校 ※平成30年度子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰

平成14年度から「朝の読書」を校時に位置づけ、全学年で取り組んでいます。また、年に11回程度図書館だよりの配付及びHP掲載等を行い、図書館の使い方、新着図書を紹介、ビブリオバトル、各種コンテスト、夏休みイベント、クラス別貸出冊数、おすすめ本等の情報を発信しています。また、校内ビブリオバトルを年4回程度実施するとともに、校外大会への積極的な参加を促しています。

(6) 三重県立宇治山田商業高等学校 ※平成25年度子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰

文化行事やブックトークなど、図書館主催のイベント開催や、生徒の学習や進路決定に資する図書館だよりの発行、目標を設定した図書館活動計画の策定等を進め、学校図書館を核とした読書活動推進を行っています。

また、教員と図書館司書が協働して、調査研究や制作、発表の場として、図書館を十分に活用した授業の実践研究を進めています。

(7) 三重県立久居農林高等学校 ※平成29年度子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰

10年以上にわたる組織的な朝の読書活動や図書委員による主体的な委員会活動、授業での学校図書館の積極的な活用等、様々な取組をバランスよく行うことで、生徒の読書習慣の形成や思考力等の育成を図っています。